

地球惑星科学委員会IUGG分科会（第24期・第4回）議事録

日時：2019年5月30日（木）12:30～13:15

会場：幕張メッセ国際会議場202室（千葉県千葉市美浜区中瀬2-1）

出席者：東久美子、佐竹健治、辻村真貴、中島映至、中田節也、中村尚、中村卓司、古屋正人、山形俊男

欠席者：小池俊雄、橋本学

議事

1. IUGG分科会の前回(11月28日)以降の主な活動について

(1) 中田委員長から前回分科会からの主な活動について以下の報告があった。

・IUGG総会への代表派遣の申請を行った。3名申請したが、中田及び辻村の2名の派遣が認められた。

・日本学術会議に各association代表者への信任状の作成を依頼した。副会長の署名済み信任状を、学術会議がIUGGのsecretaryに提出した。

・JpGUのユニオンセッションとして、「100周年を迎えるIUGGへの日本の貢献」というセッションを企画し、講演依頼を行った。5月30日の午前中、このセッションを開催した。

(2) JpGUの「100周年を迎えるIUGGへの日本の貢献」セッション終了後、IUGGのIsmail-Zadeh事務局長から、セッションでの講演内容をまとめた記事をEPSなどに投稿してはどうかという提案があった。中田委員長が本分科会の委員にこの提案についての意見を求め、古屋委員からはEPSはレビューを受け付けないとの指摘があった。他の雑誌等を検討すべきか意見交換を行った。

2. 第27回IUGG総会（100周年記念大会）について

(1) 中島委員からモンテリオールで開催されるIUGG総会に約5000件のアブストラクトの投稿があったとの報告があった。

(2) 中田委員長から資料3～5に基づき、以下の説明があった。

・7月9日、12日、16日にCouncil meetingが開催される予定。資料3がその議事次第である。

・2023年のIUGG総会の開催場所について、5カ国から提案があった（ベルリン(ドイツ)、イズミール(トルコ)、ジュネーブ(スイス)、アテネ(ギリシア)、グアダハラ(メキシコ)）。7月16日に投票で開催地が決定される。投票の前日までに新たな情報が入れば、中田委員長が委員にメールで連絡するので、開催地投票について意見があれば中田委員長に伝えて欲しい。

・7月12日に開催されるSession IIでは各associationの報告を行う予定であり、各commissionやworking groupの報告の承認を行う予定である。

・7月16日に開催されるSession IIIでは予算の信任投票、役員選挙の立候補声明と投票がある。その後、2023年IUGG総会の開催地の投票が行われる。Secretary Generalに2名が立候補している。投票した方が良い候補者がいれば知らせて欲しい。Bureau membersのPosition 1, 2, 3はそれぞれヨーロッパ、アジア、アメリカから選出する。Position 3についてはMcNutt (USA) に投票する予定。

・予算案は資料5に示されている。日本はカテゴリー8で、20ユニット×2050米ドル（4万米ドル強）を拠出することになっている。1ユニットの金額は物価上昇に伴って年々上昇するので分担金は年々増加する。IUGG総会への日本の出席者が多いため、IUGGから日本のユニット数を上げるように要求が繰り返されるが、これまで本分科会は拒否し続けている。

3. その他

(1) 各小委員会の活動について以下の報告があった（association名の次の括弧内は報告者）。

・ IACS（東）：特になし。

・ IAG（古屋）：IAG小委員会を5月27日に開催した。2019-2023年のIAG執行部の選挙結果が紹介され、Service Representative 3名のうちの一名に大坪俊通氏（一橋大）に決まった。同小委員会の下にあったGGOS Working GroupのGGOS Japanへの改称について説明され、了承された。National Report作成協力の呼びかけがあった。

・ IAGA（中村卓）：特になし。

・ IAHS（辻村）：12月21日に小委員会を開催した。第24期IAHS小委員会の活動方針を検討し、UNESCO-IHP国内委員会との連携強化、人材育成の推進等を確認した。IAEAのトレーニングコースを2019年3月18日～3月22日に日本（つくば）で実施し、IAHS小委員会、IHP国内委員会が後援した。

・ IAMAS（中村尚）：5月16日に小委員会を開催した。IUGG総会のIAMAS関連シンポジウム、及びJpGUでの100周年のイベントについて紹介された。加えて、地球惑星圏分科会の下での新設が承認された地球観測将来構想小委員会についても紹介された。

・ IAPSO（山形）：メールベースで会議を実施した。升本氏（東京大）を役員候補に推薦した。

・ IASPEI（佐竹）：5月26日に小委員会を開催した。IUGG総会のIASPEI関係のビジネス会議に出席して、地震学会のニュースレターに報告を掲載する分担を決めた。IUGG総会に地震学会から5名の旅費をサポートすることになった。

・ IAVCEI（中田）：5月27日に小委員会を開催した。役員選挙が終了し、日本から副会長に井口正人氏（京都大）と執行委員に藤田英輔氏（防災科研）を送り込むことができた。その他、国際共同研究について情報交換を行った。

(2) 中島委員から、以下の意見が出された。IUGGにはcommitteeが数多くあり、リエゾンの推薦依頼が多数ある。しかし、日本は組織的に推薦を行っていない状況。中国などは国家として推薦する体制をとっている。日本もcommittee関係者からだけでなく、広範囲に候補者を選出できるように組織的に推薦する必要がある。中村卓司委員からリエゾンの役割と投票権の有無について質問があった。中島委員から、例えばWMOリエゾンには投票権がないこと、中田委員からリエゾンについては各associationに推薦依頼があるとの説明があった。

(3) 中村尚委員から、学術会議加入の国際学術団体への拠出金は昨今の厳しい学術会議の予算の中でも最優先されているようだとの説明があった。第25期の拠出金の査定に必要な資料は国際委員会国際戦略対応分科会(拠出金について検討)に昨年未までに提出されているが、今年は例年この時期に行われているヒアリングが現時点ではまだ開かれていない。

(4) 中田委員長から今後の活動について説明があった。年度内にIUGG分科会を都内で1回開催できる予算があり、12月末に地球惑星科学委員会が開催されるので、その前に開催する方向で考える。モントリオールでのIUGG総会終了後に、情報及び意見の交換を行う。各associationで受賞等の情報があれば連絡して欲しい。

(5) 山形委員から、山形委員がモントリオールに行けなくなったため、日比谷紀之氏（東京大）がIAPSOの日本代表として参加する予定であるとの報告があった。

配布資料：

1. 第24期・第3回IUGG分科会議事録
2. JpGUセッション：100周年を迎えるIUGGへの日本の貢献
3. 第27回IUGG総会議事次第
4. 次期IUGG役員候補者リスト
5. IUGG予算案（2020-2023）